理数実践 No.7　　月　日（　）　　1年　組　番 名前

# 「研究（実験）内容発表に向けたポスターを作ろう！！」

**教科書 P.100～109**

**導入**

ポスターは小学校から大学の研究発表まで幅広く使われる手段である。研究の成果をポスターにまとめ、見学者に対面でその内容を伝える発表形式を「ポスターセッション」という。ポスターセッションに向けて、自分たちが行ったパックテストの結果を、ポスターにまとめていこう！

## 1．研究内容発表に向けたポスターに必要な項目

以前作成したポスターは「自分の調べた内容を伝える」ためのポスターである。しかし、今回作成する「研究内容発表に向けたポスター」では、必要な項目や重視されるポイントが異なってくる。それぞれをしっかり確認した上でポスター作製に取り掛かるようにしよう。

**ポスター作製の大前提 ： 情報量は最小限に！ 文章は短く、箇条書き OK！ 見やすいデザインで！**

### ① タイトル

ポスターの内容が一目で分かるものにする。以前のように**「何だろう」**と思わせるタイトルより研究内容が分かるものがいい。

例「海って本当に汚いの？」 → 「六甲アイランド高等学校周辺の海の水質調査」

### ② はじめに（Introduction、イントロ、導入）

発表を聞く上で必要な知識や、研究の目的・動機（なぜ調べようと思ったか）などを書く。すでに分かっていることや、分かっていないこと、この研究の意義（調べる必要性）などもここに書く。

### ③ 実験材料、方法（Method）

実験に使った材料（今回の場合は各種の水）、実験の手順を書く。**実験ごとにタイトルをつけ、実験ごとにまとめて書いた方が書きやすい**。例）各種水のパックテストによる水質調査

この部分の文章は箇条書き・**過去形で**簡潔に書く。例）ビーカーに 10mL 水を入れた。

### ④ 結果（Result）

グラフや図を使う場合は、番号やタイトルをつける。例）図１ 今週１週間の天気

結果は図やグラフだけを載せるのではなく、それがどんな結果を示しているのか文章でも説明する。

例）（グラフを載せたあとに）COD が最も高かったのは A の水で、20ppm であった。

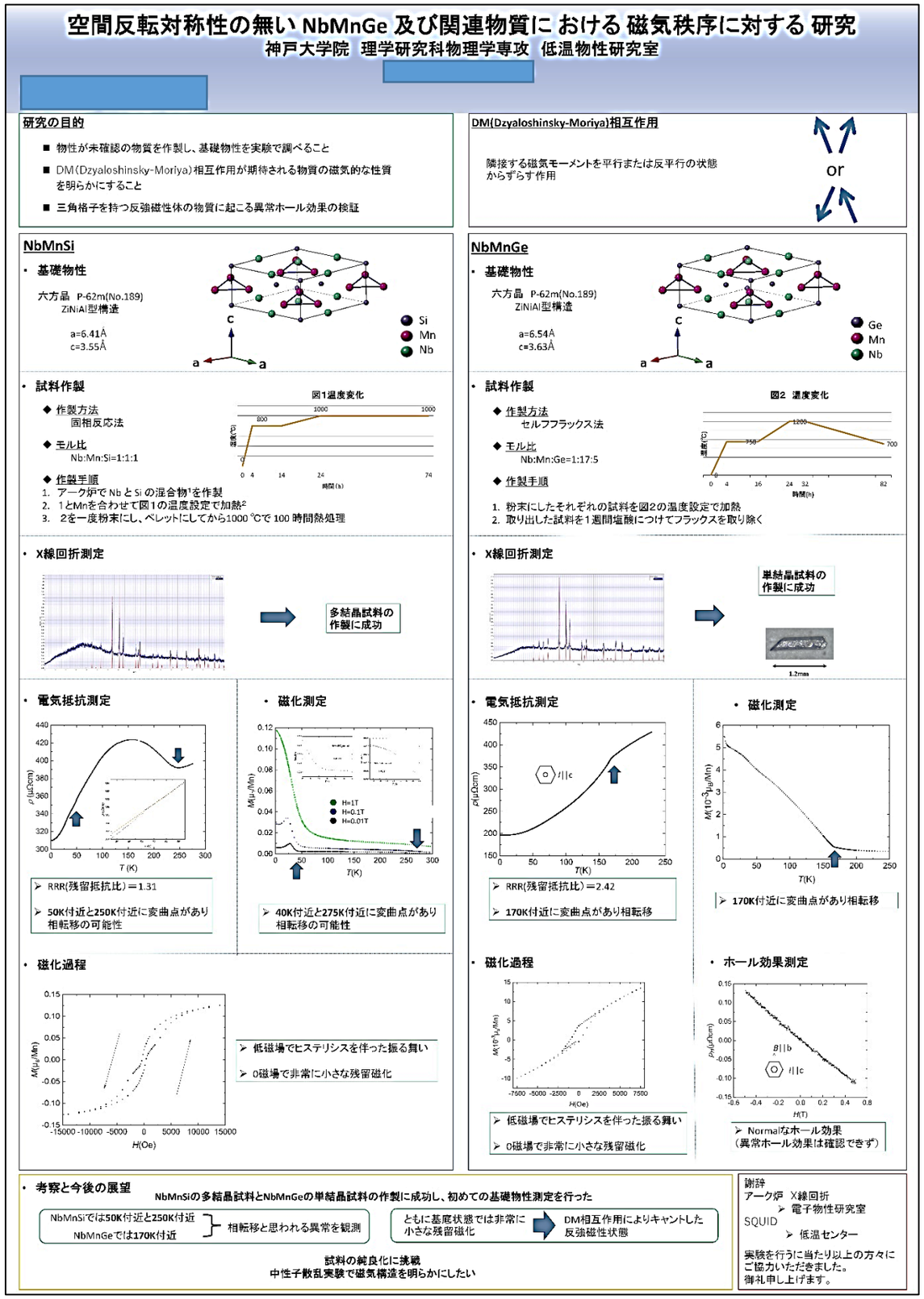
### ⑤ 考察（Discussion）

最初に設定した実験タイトルに対して、実験結果から考えられることを書く。実験結果を見て、「こうなったのはこうだからだと考える。」という自分の考えを、参考文献をもとに書く（自分の勝手な想像だけで考えたものにならないように注意！）。

### ⑥ 結論（まとめ、Summary）

この研究全体から分かったことをまとめて書く。単純に各実験の結果を言い換えたものでよく、箇条書きなどで端的にまとめる。例）COD は〇〇な水で高い値を示す。

### ⑦ 参考文献（Reference）

参考にした本があれば、「著者」「題名」「出版社名」、Web サイトの場合は「タイトル」「閲覧日時（20××年×月×日閲覧）」を書く。（正式にはもう少し書かなければいけない情報があります！）

## ポスター例①　中村先生の大学院の研究内容発表ポスター